

令和5年度小平市立小平第二中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

全体的には、都平均より2ポイント低く、全国平均より0.2ポイント高い結果であった。C 話すこと・聞くこと分野が特出して高く、問題形式では記述式の正答率が高かった。一方で知識技能の項目や短答式の問題形式は都・全国平均と比べて低い結果となった。無回答率は低い。

課題

文法や漢字など地道な暗記作業を要する分野の積み重ねが甘い。文章の内容を理解したり、文中から重要箇所を見つける能力は概ね身につけているが、短答式の問題分野への正答率が低いのは、より正確で具体的な読み取り能力を養う必要があることを表していると思われる。

学校で取り組む具体的な改善策

- 知識技能の分野に関する反復練習を行う。
- 家庭学習（特に復習）の習慣を身につけさせる。
- 授業内でのワークシートに短答式の問題を取り上げ、グループワークで難易度を下げながら協同的に学習させる。（主体的で深い学びとの関連を意識する）

【数学】

状況の分析

全体の傾向としては、都平均より1ポイント低く、全国平均より2ポイント高い結果であった。特にC 関数の分野では都平均より高く、D データの活用の分野は都平均や国の平均より低い。また、思考・判断・表現の観点は都平均より高い。

課題

思考を必要とする問題、説明する問題などに対して自分なりに考えて表現できる力は少しずつ身につけている。一方で知識・理解について呈定着していない分野もある。また、無回答率が若干高い問題もあるので、学力に差がある生徒集団に対する手だてが必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

- 授業内での基本事項の確認や家庭学習の課題により学力の定着を図る。
- 数学的表現を正しく使い、証明問題や応用問題に対応できるよう、プリント学習を行う。
- 苦手意識のある項目に関しては、チームティーチングや小グループでの学び合いを行い、個に応じた指導を行う。

【英語】

状況の分析

課題

全体の傾向としては、都平均より3ポイント低く、全国平均より3.4ポイント高い結果であった。一部のリスニング問題の正答率は都平均より高く、自分の意見を述べるライティング問題の正答率は、都や国の平均より低い。

「話すこと」については、全国平均より0.1ポイント高い結果であった。

必要な情報を正確に聞き取る力は、都や全国の平均を大きく上回っている。また、「話すこと」については、無回答率が全国平均より低く、英語でコミュニケーションを図ろうとする意欲が感じられる。

一方で、自分の意見についてまとめた文を書く・話すというアウトプット活動に課題がある。

学校で取り組む具体的な改善策

○授業内での活動や家庭学習の課題により、基本的な学力の定着を図る。

○授業内でのコミュニケーション活動を継続的にを行い、英語でのやりとりに慣れさせる。

○話す・書く活動では、自分の意見を「なぜそのように考えるのか」という理由を含めて伝えられるように指導を行う。

【質問紙】

状況の分析

課題

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」の項目は、全国平均を上回っている。他にも外国に関心が高いことや読書が好きな生徒も多いことが読み取れる。授業や生活からで広く物事に関心を高めることができている。一方で「将来の夢や目標を持っていますか。」の項目は全国平均を下回っている。

人のために役に立てるようにしたいと思っているが、自信のなさから行動に写すことが苦手な生徒が多い傾向がある。授業や道徳、学活の時間での話し合い活動によく取り組んでいるので、さらにお互いの行動を認め合い、生徒の自己肯定感を高め自己実現に結びついていくための工夫を実践できるとよい。

学校で取り組む具体的な改善策

○「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話合ったりする活動に取り組んでいます。」と、答えた生徒の割合が都・全国と比較して高い。また、学活でも同様の質問に対して肯定的な回答が多い。学活や行事、道徳の授業を通して、生徒の自主的な活動を促進し、さらに生徒が活躍できる場面を効果的に実践する。

○生徒の活躍を教師が褒め、伸ばしていくことからさらに生徒どうしが互いを認め高め合える集団として育成していく。

○授業や総合的な学習の時間を通して、生徒の興味関心を高められる学習を行えている。さらに前向きに取り組む意欲を高めていけるよう授業改善を図っていく。